動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒260 千葉市中央区要町2番8号（動力車会館）
電話｛（鉄電） 千葉 2935・2936番
（公） 043（222）7207番

93.4.19 No.3779

カンボジア・朝鮮・アジア▷

声を大にして行動を

即時撤兵・侵略阻止へ

完全装備で作業場周辺を警戒する自衛官
＝16日正午、タケオ州のトティエ山頂で、鎌田正平写す

カンボジア内戦激化の中で、天皇が又ぞろ前面に

天皇訪沖を許すな

三本の植樹のために数万本の木を伐採し、二十億円を費やし、沖縄全県を"戒厳"体制に▷

怒りなしには

四月二三日、天皇アキヒトは、天皇としてはじめて沖縄の地に乗り込むもうとしている。しかも、沖縄戦での最大の激戦地であり多くの住民が虐殺された摩文仁（まぶに）の丘に立ち、そこに三本の木を植え、"ひめゆりの塔"などに参拝して「言葉」を述べるというのである。

こんな暴挙！断じて許せるか！

植樹祭のひとつをとってみても、そのデタラメで超反動性は隠せない。"緑化思想の普及"のためとしながら実は三本の木を植えるのに「警備のため」として数万の木が伐採され、税金二十億円が費やされているのである。加えて**戦没者追悼**を行うというのである。沖縄戦で殺された多くの人々を"皇軍の兵士"どもと共に「英霊」として祭りあげるというのだ。まさに、天皇の戦争責任を清算し、再びアジアにむかっての侵略にかりたてようとしているのである。そのことは、植樹祭への自衛隊や在日米軍の幹部の出席でも明らかである。

天皇警備なら何をやってもいいのか

訪沖を目前にして沖縄現地は、「戒厳」状態におかれている。訪沖に意義を申したてる者への露骨な弾圧など天皇制の極反動の本性を丸だしにして力で組伏ようと必死なのである。要するに県民の怒りを心底おそれているのだ。

こうした中で、闘う労働者・住民は弾圧を突きぬけたたかいに立ちあがっている。われわれは、沖縄の仲間たちの決起に応え共に闘うものでなければならない。

すでに周知のとうり、カンボジアをめぐる情勢は一触即発の事態に突入している。

四月八日発生したボランティア青年の射殺事件は、総選挙をめぐって内戦がよりいっそう激化していることを示している。こうした中で第二次派兵部隊の任務は、道路工事に限らず内戦の当事者になろうとしている。停戦合意の破綻のなかでPKO協力法に照らしてみても政府は即時撤兵しなければならない。

しかし、カンボジアを足場にアジア全域に侵略を拡大しようとしている政府・支配階級は撤収どころかモザンビークPKO派遣すら行うと発表している。

われわれは、ボランティアの死を美化するキャンペーンと派兵拡大と侵略部隊としてのエスカレートにたいして、即時撤兵、侵略粉砕のたたかいを何としても強めなければならない。

四・二五、植樹祭・追悼式粉砕、自衛隊即時撤兵"中央集会"に全力をあげて結集しようではないか。

4・25

侵略のための沖縄植樹祭、追悼式粉砕
自衛隊即時撤兵▽
中央集会に結集しよう
●正午 ●宮下公園（渋谷）